

2、福島県農民連、福島県北農民連 6月24日午前10時より

事務所:〒960-1101 福島市大森字日の下 4-1

- ・福島県北農民連、事務局長 服部崇
- ・福島県農民連副会長、佐々木健洋

福島原発事故から14年たっているが被害、農産物の風評被害により現在も苦しんでいるのが現状である。今度来るときは原発被害を受けた地域を案内するので、ぜひ原発被害の現状を見てほしいと言われたが、私自身遠い昔の出来事のように考えが薄れつつあるのが現状だ。再度考えなければと思いなおす。

資源エネルギー庁は

「福島第一原子力発電所は現在、2051年までの廃炉完了を目標に、最難関である溶融核燃料（燃料デブリ）の取り出しや、使用済み核燃料の搬出が計画的に進められています。敷地内の約96%のエリアでは特別な防護服なしで作業が可能となっており、構内の安全環境は大きく改善されています。」

とは言っているが、いろんな方面でまだまだこれからだと感ずる。

福島県農民連では現在も東電と裁判所と損害賠償の取り組みを続けている。

農産物の被害は「風評被害」ではなく「実害」です。と言われました。

theme

**1 勝ち取る。
原発賠償請求**

農民連は原発事故の損害賠償請求で大きな役割を果たしています。誰かに委任するのではなく、わたしたち農民ひとりひとりが損害賠償を勝ち取っていく姿勢でいます。

[→ 詳しく](#)

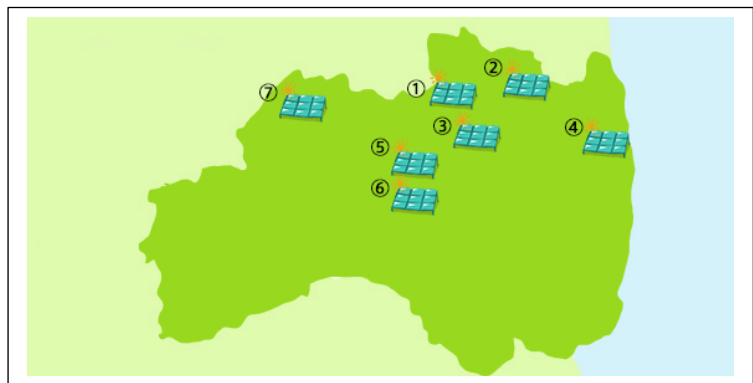


theme

**④ 東電には頼らない
エネルギー自立**

地域のエネルギー自立を促す大きな力
ギは、農村に暮らす我々が握っていま
す。地産地消は農産物だけの問題ではあ
りません。自分たちのエネルギーは自分
たちで賄う、そんな当たり前な時代が
やって来ました。

[→ 詳しく](#)



福島県内ミドルクラス発電所(2014 年 8 月現在)

福島農民連では、自然エネルギーの取り組みに力を入れている

(福島農民連のホームページより)

福島原発事故は、事故発生から 3 年を経過しても、放射性汚染水の漏えいが止まりません。除染も進んでおらず、今も 14 万人が避難生活を余儀なくされています。福島の現状は、原発の電気を使ってきた私たちの問題でもあると思います。みなさま、市民の力で太陽光発電所をつくりませんか。 ご協力いただければ幸いです。

まずは太陽光から

太陽光発電は、計画から設置までの期間が短期間で売電できる特徴を持っています。小規模分散型発電施設の有利性を活かす上でも、一気に広がる可能性を持っている。そのスピードが重要です。いま、住宅用の 3 ～ 4 k w 出力の発電が補助金などもあり普及が進んでいますが、ドイツのようなスピードで普及させるためには集合住宅、スーパー、公共建築、ビルや工場などの屋根で発電事業者として 1 0 k w 以上出力の太陽光発電施設設置が推進されるべきです。買取期間も 2 0 年ですので採算を考えても重要です。 農村地域の場合も、自分の家の屋根だけではなく、畜舎や作業場など 1 0 k w 以上の出力を持つ施設設置を検討すべきです。さらに集落や地域で日照が確保される雑種地や耕作が困難で農地としての復旧が難しい「土地」への設置を進めていと話をされました。

税金申告の取り組み

イギリス、ドイツは基礎控除が約 1 2 0 万円

現在の基礎控除は 48 万円で余りにも低すぎ、イギリス、ドイツは基礎控除が約 1 2 0 万円です。農民は、生産費を下回る農産物価格を強いられています。米農家の「時給」は 1 7 9 円で、労働者の最低賃金をも下回っています。

直売所

福島農民連では組合員が栽培した農産物を直売所で販売しています。

産直カフェ

農民連では地域の米作りの仲間が集まって、学習、交流して栽培基準を作り、減農薬減化学肥料栽培に努め、安全な米作りをすすめています。販売先は福島県内の消費者団体や病院等への供給しているほか、関東、近畿、東海地区の消費者団体、米卸し、小売店との産直に取り組んでいます。販売先と交流と合意を大切にします。

福島農民連直売所



産直カフェ



福島農民連産直農協オンラインストア

安心安全な農産物をオンラインストアで無添加あまざけ、有機玄米コシヒカリ、純正国産手絞りなたね油、まる大丸醤油、つゆ、そうめんなど多くの農産物を販売しています。八女市の農家も、あらゆる手立てを使い販売や生産に見習うべきと事が多いのではと感心して視察してきました。